

## ブドウ「安芸クイーン」の 光環境改善による着色向上技術

### 研究のねらい

本県は土壌が肥沃で、ブドウの新梢が伸びやすく、過繁茂になりやすい傾向があります。これまで、過繁茂になった場合でも、着色期の夜温が下がることで着色は進んでいましたが、近年は温暖化によって夜温が下がらないため、着色不良が増加しています。そこで、1新梢に2房着果させて慣行と同じ着果量を確保し、新梢数を減らすことで、果房への紫外線量を増やし、着色が改善できるか検証しました。

### 技術の特徴

1 1新梢に2房着果させて慣行と同じ着果量を確保しつつ、摘房時（6月中旬頃）に着果している枝のみ残し、空枝を除去することで、棚下の光環境を改善することができます（写真1）。

- 2 空枝の除去による光環境の改善効果は着色期（7月中旬）まで持続し、棚下の相対紫外線量を多くすることができます（図1）。
- 3 空枝を除去することによって、収穫時（8月下旬）の果皮色の着色を向上させることができ（写真2）、果実糖度は慣行と同等もしくは高い傾向が見られました。
- 4 着色期である7月の日平均気温は平成28年を除き、平年よりも最大で3.0℃高く推移しましたが、本技術によって着色が向上したことから、温暖化が進んでも安定して着色が得られると考えられます。

### 今後の取り組み

今後は、黒系品種の果実品質の向上に取り組み、ブドウ農家の経営向上を目指します。  
（執筆者：柚木 秀雄）



写真1 6月中旬に空枝を除去する前の棚面（左）と除去した直後の棚面（右）

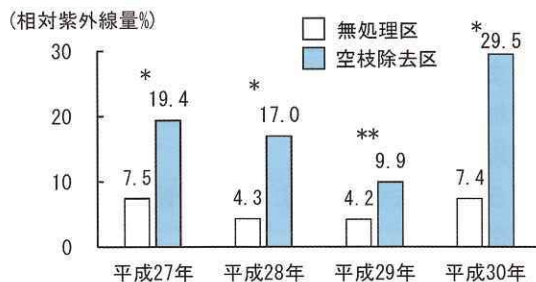


図1 空枝除去による光環境改善効果（着色期）  
t検定により、\*：5%水準、\*\*：1%水準で有意差あり。



写真2 着色改善効果  
上：空枝除去区、下：無処理区